子どもの命を守る自殺対策の強化に関する一般質問

～ すべての子どもが、安心して「助けて」と言えるまち　ひらかわに ～

子ども一人ひとりの“いのち”と“未来”をみんなで守るために

質問（議員）

Q1 子どもの自殺の現状をどう捉えているか。

全国で子どもの自殺が過去最多となるなど、深刻な状況。平川市の認識は。

Q2 これまでの取組とその効果は。

第２次自殺対策計画に基づく取組の内容と、これまでの成果・課題は。

Q3 学校での早期把握の取組はどうか。

１人１台端末を活用した心の健康観察の取組状況と、全校への拡大は可能か。

Q4 関係機関の連携体制はどうか。

学校・医療・福祉・地域が連携する協議体を早期に設置すべきでは。

Q5 今後、どのように取組を強化するのか。

すべての子どもが安心して「助けて」と言える環境をづくりに向けた、市の考えと方針は。

答弁（市）

- 全国・県と同様、本市でも子どもの自殺は重大な問題と受け止めている。
- 子どもの命を守ることは、市の重要課題である。

- 「第２次平川市自殺対策計画」に基づき、相談窓口の周知、ＳＯＳの出し方教育、教職員研修などを実施。
- 一定の効果が見られる一方で、相談につながりにくいケースもあり、更なる取組が必要と認識している。

- 一部の学校で、１人１台端末を活用した心の健康観察を実施している。
- 子どもの小さな変化を早期に把握できる有効な手段と考えており、今後、全校への拡大に向けて検討する。

- 現在も関係課や関係機関との情報共有は行っているが、より実効性のある連携が必要である。
- ご提案の協議体の設置については、早期に向けて検討を進める。

- 学校・家庭・地域・関係機関が一体となった切れ目のない支援体制の構築を進める。
- 子どもが安心して「助けて」と言える環境づくりに向け、相談支援の充実や啓発活動をさらに強化する。

市の主な取組（第２次自殺対策計画に基づく）

相談窓口の周知

子どもや保護者が相談しやすい窓口を広く周知。

ＳＯＳの出し方教育

児童生徒向けに、「助けて」と言うことの大切さを学ぶ授業を実施。

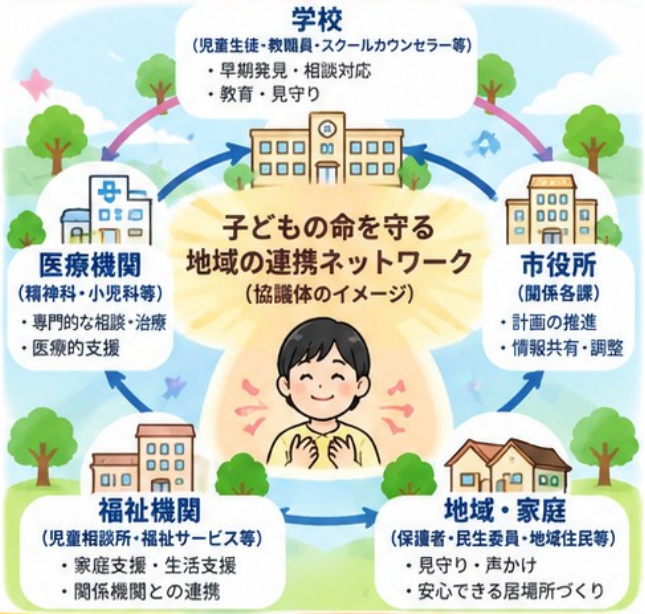
教職員研修

子どもの心の変化に気づき、適切に対応できるよう研修を実施。

１人１台端末による心の健康観察（試行実施）

日々の心の状態を把握し、早期の支援につなげる取組。

提案：学校・医療・福祉などが連携する協議体の早期設置



期待される効果

- ☑ 子どもの小さな変化を早期に発見し、支援につなげることができる
- ☑ 学校・医療・福祉などの連携により、切れ目のない支援が可能となる
- ☑ 子どもが安心して「助けて」と言える環境が整う

めざす姿

すべての子どもが安心して過ごし、自分らしく生きられるまち　ひらかわ